

# 令和4年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井市立白山小学校

## 1 本校の教育目標

社会の変化に適切に対応できる「生きる力」の育成を目指し、個性尊重という基本的な考え方にたって、一人一人の能力・個性に応じた教育を展開する。

### 校訓

- やりぬく子－生活のきまりを身につけ、実践する子
- 考える子－正しい知識を求め、自ら学ぶ子
- 助け合う子－善意と友愛に満ち、仲良くする子

## 2 特別の教育課程の内容

### (1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年では、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年では、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに「書のまち」を発信する地域の特性を探求する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

### (2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

### (3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、(特別支援学級 単独でも実施)

### (4) 地域の特徴を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。

それらを解決するため、前述した地域性や学校の特徴、さらには書道の特徴を生かした「書道科」を新設

し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して、「書のまち春日井」に根差して生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済み。

3 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十分に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスの取れた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十分に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書の道具や筆の使い方を覚えるなど、1年生から基本的な知識を身に付け、書に親しむことができた。</li> <li>・ 授業を通して、姿勢よく字が書けるようになってきた。</li> <li>・ 硬筆とは違う墨のよさを知ることができ、楽しんで活動することができた。</li> <li>・ 文字を中心に書くなど、字のバランスを考えることができた。</li> <li>・ 書の作品作りを楽しみながら行い、字を書くことにも興味をもつことができた。</li> <li>・ 手本を見て上手に書くことを意識する書写の時間も頑張ったが、自由に自分の表現ができる書の時間は、より主体的に取り組むことができた。</li> <li>・ 文字の配置や動きについて、どのようにすればよりよいパフォーマンスになるのか児童同士でアドバイスし合うことができた。</li> <li>・ 毎回作品に落款印を押したことで、自分の作品の完成度を高めることができた。また、作品に対する愛着をもつきっかけになった。</li> </ul>
教 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任と書道科講師の2人で個別に指導していくことで、短時間で一人一人の作品の完成度を高めることができた。</li> <li>・ うちわやランプなど実際に使えるものを作品としたことで、児童も意欲をもって取り組んだ。</li> <li>・ 書道パフォーマンスを通して、大きな筆の使い方や流れなど基本的なことを伝え、書に対する見方を広げることができた。</li> <li>・ 児童にとって身近にあるものを題材にすることで、児童の興味・関心を高めることができた。</li> <li>・ 書道科講師と連絡を密にし、授業では共通の認識をもって指導にあたることができた。</li> </ul>

保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書に対する興味の高まり」において、児童と保護者の認識の違いの差が出た。書に対して「興味・関心が高まった」と回答している児童が多いので、家庭や地域に対してもう少し書道科の授業に対しての情報公開をしていくとよい。</li> </ul>
-----	---

(3) 学校関係者評価

学校評議員の方に書道パフォーマンスの作品を見ていただいたり、書の時間を参観していただいたりした。春日井市の方針はよく理解できたので、今後も続けてほしい。

(4) 課題

- ・ 低学年の水習字では、作品として残していくために積極的にICTを活用するなど工夫をしていくとよい。
- ・ 書の時間の作品作りは、まとまった時間が必要になるので、計画的に進めていく。
- ・ 技術的なことに関しては、書道科講師中心に指導していただいたが、教師も力量を高め、より効果的な指導ができるようにしていく
- ・ 今後も授業改善を繰り返し、児童が主体的に取り組む授業づくりをしていく。

※ ホームページ掲載のURL… <http://www.kasugai.ed.jp/hakusan-e>